

Truth

2017 Autumn

contents

2 **特集** 学生一人ひとりの活動から見える成長
座談会 ～世界を学び、地域で生きる。～

Topics

韓国・啓明大学 申一熙総長へ名誉博士号を授与
ハワイ州上院議員 ブライアン・タニグチ氏による講演会を開催
長期インターンシップを実施

8 **海外留学前**の学生を対象にお好み焼き教室を開催
トレーニングルームの機器をリニューアル
ファシリテーションのスキルとマインドを実践
英語多読マラソン「前期多読促進月間」の表彰式を開催
留学生対象フォトコンテストを開催

11 Campus News

14 卒業生からの便り

15 修大人

16 2017 作文コンテスト・刊行物

17 Event Guide・寄附受納

18 Circle Information

22 Campus Photo Message



●通訳担当学生：人文学部英語英文学科4年 4名(左から)

伊藤 万将(いとう かずまさ)さん(広島市立舟入高校出身)
榊原 隼(さかきばら はやと)さん(広島県・修道高校出身)
村上 愛未(むらかみ なるみ)さん(広島市立沼田高校出身)
植村 俊介(うえむら しゅんすけ)さん(広島市立沼田高校出身)

10月3日、本学7号館学術ホールにて講演会が開催され、学生4名が通訳を行いました。講演会では、「Born a Japanese American」をテーマにハワイ州上院議員ブライアン・タニグチ氏より英語でご講演いただきました。通訳を担当した4名は、2015年から人文学部に設置されている通訳コースの第1期生です。通訳コースは4つの通訳演習科目からなる2年間のプログラムで、担当学生は基礎から模擬通訳までの訓練を通じて通訳に必要な知識と技能を身につけています。講演内容から質疑応答まで、タニグチ氏と聴講者の間をつなぐ役割を果たしました。※講演会の詳細につきましては、p.8_Topics2をご覧ください。

撮影場所：7号館学術ホール

「Truth」—そのネーミングの由来—

Since 1972

Truth 真理・真実・真相
Rapidly 速く
Universally ひろく
Thoughtfully 思慮深く
Honestly 誠実に

大学広報誌のめざすべき、
真理・真実・真相をできるだけ速く、ひろく、しかも思慮深く、誠実に伝えることをモットーとして、ここに「TRUTH」が生まれました。

道を修める

「修道」という名は、古典の一つ『中庸』の「天命之謂性 率性之謂道 修道之謂教」(天の命ずるこれを性といい、性に率うこれを道といい、道を修めるこれを教えという)に由来します。この意味は「人間にはそれぞれの天性がある。天性を伸ばすのが人間の道である。その道をしっかりとしたものに整えるのが教育である。」という意味に解されます。「地球的視野を持つ人材の育成」「個性的、自律的な人間の育成」を教育の理念として掲げ、その精神をもとに、広島修道大学はさらに未来をめざします。



広島修道大学

学長室総合企画課

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
Tel. (082) 830-1102 Fax. (082) 830-1324
ホームページ <http://www.shudo-u.ac.jp/>
携帯用サイト <http://www.shudo-u.ac.jp/mobile/>



Webサイト(スマートフォン対応)
※対応できない機種もありますので
ご注意ください。



すべてを学びのもとに
広島修道大学

通巻第192号 2017年10月24日発行 広島修道大学広報誌

Truth

2017 Autumn Hiroshima Shudo University

特集 学生一人ひとりの活動から見える成長
座談会 ～世界を学び、地域で生きる。～

■Topics ■Campus News ■卒業生からの便り ■修大人 ■2017 作文コンテスト
■刊行物 ■Event Guide ■寄附受納 ■Circle Information
■Campus Photo Message



学生一人ひとりの活動から見える成長 ～世界を学び、地域で生きる。～

本学は「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献する人材の養成」を理念、教育目標として掲げ、「世界を学び、地域で生きる」をスローガンに、さまざまな活動ができる機会を設け、学生の成長を支援しています。座談会では、学内外での活動を活発に行っている学生4名と市川学長、竹井国際センター長にお集りいただきました。学生の活動の広がり、そして、さまざまな活動から見える修大生の成長した姿をお届けします。

安部 里音(あべりお)さん
人間環境学部人間環境学科4年
(広島県立呉宮原高等学校出身)

地域活動から
グローバルまで
視野を広げる

細田 成美(ほそだ なるみ)さん
人文学部英語英文学科4年
(広島県立安古市高等学校出身)

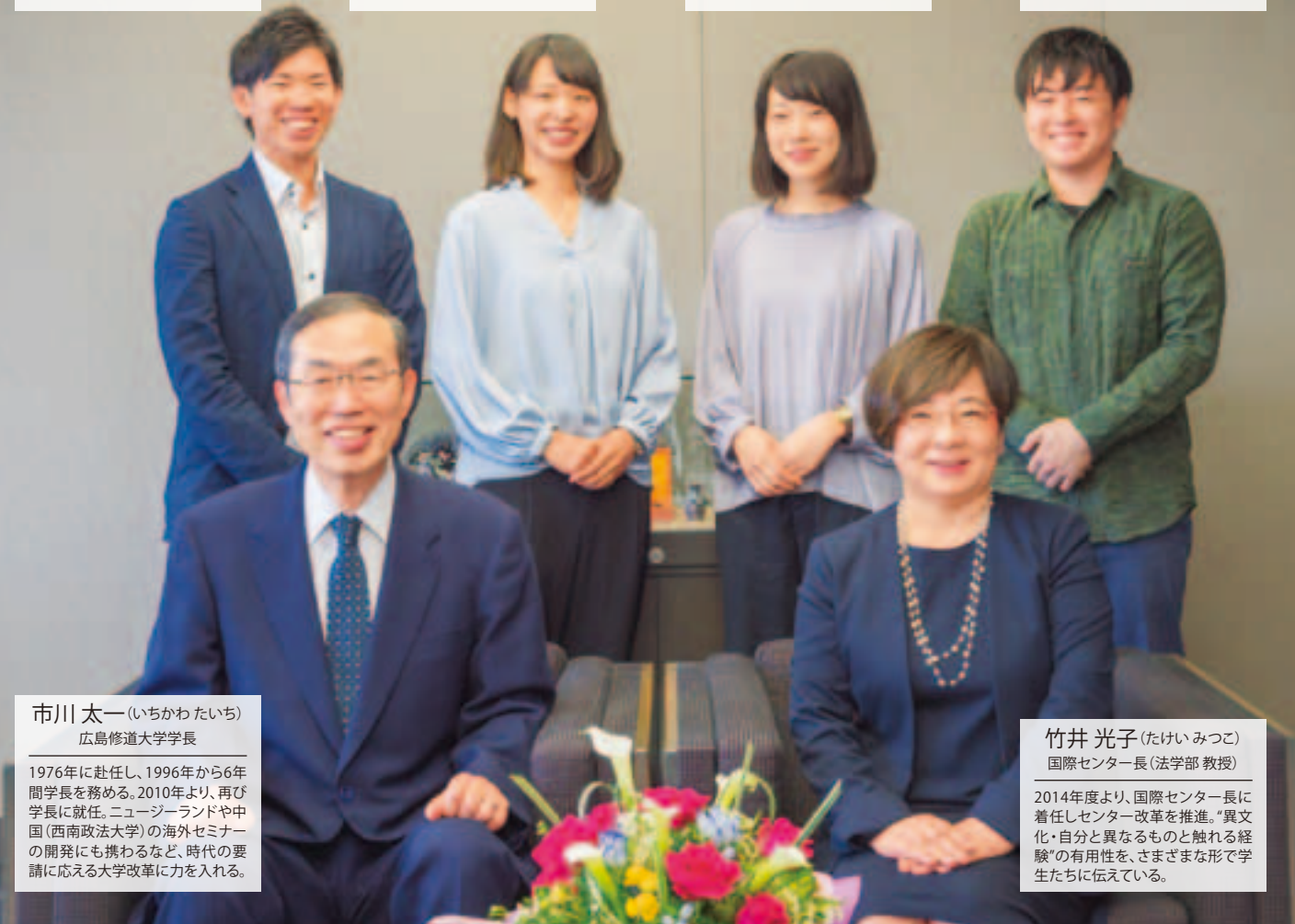
留学をきっかけに
地域や学内
でも活動

東 奈々香(ひがし ななか)さん
商学部商学科4年
(広島県立世羅高等学校出身)

グローバルを軸に
積極的に活動

早田 志也(はやた ゆきや)さん
法学部国際政治学科4年
(広島県立広島高等学校出身)

広い視野で
地域活動に
取り組む



市川 太一(いちかわ たいち)
広島修道大学学長

1976年に赴任し、1996年から6年間学長を務める。2010年より、再び学長に就任。ニュージーランドや中国(西南政法大学)の海外セミナーの開発にも携わるなど、時代の要請に応える大学改革に力を入れる。

竹井 光子(たけい みつこ)
国際センター長(法学部 教授)

2014年度より、国際センター長に着任しセンター改革を推進。“異文化・自分と異なるものと触れる経験”の有用性を、さまざまな形で学生たちに伝えている。

1年生の早い時期から 活動を重ねた学生たち

市川:まず、一人ひとりの主な活動内容について教えてください。

東:1年生でグローバルコース*に入り、2年生後期にはアメリカに留学し、サービスマーケティングを体験。3年生では中国人留学

生のバディ*となり、それと併行して地域つながるプロジェクト*で広島市内の小中高生を対象に国際交流活動を行ったり、課外活動として平和公園で英語のガイドボランティアに参加しました。4年生では就職活動がありましたが、夏にはホストファミリーとして、日本語・日本文化セミナーに参加している台湾人留学生を受け

入れました。活動の中でたくさんの人と出会うことで新たな観点が生まれ、さらにまた別の活動にチャレンジしていくという4年間だったと思います。

細田:私は1年生の春に参加したウォリックセミナー(海外セミナー*)で海外の文化や外国人と接することに興味を持ち、広島市が平和公園で行っている外国人を英

語で案内するボランティアに参加するなど、活動を広げていきました。2年生からは、バディとして交換留学生の生活サポートをした他、iCafeピア*として交流を支援しました。活動を重ねるにつれ、「英語を話す」だけでなく自分の視野も広げたいという気持ちが強くなり、「国際交流をする」という軸に変わっていききました。そういった思いで3年生からはRA*としてiハウスに住んでいます。

早田:私の活動は、復興支援ボランティアから始まりました。1年生の夏、東北の震災復興ボランティアに行ったのですが、出発するということに広島でも土砂災害が発生したため、東北から戻ってすぐに安佐南区のボランティアセンターで活動しました。その一方で、海外への関心・興味もあり、1年生の春には、カンボジアのスタディツアー、2年生の春にはベトナム交流学习セミナー(海外セミナー)に参加し、それまでの活動で得た手応えと自信をもとに、夏には自費で約3週間のカンボジア人旅に。3年生の夏には、寝泊まりはほとんど夜行バスの中という、過酷なベトナム縦断一人旅を決行しました。3年生の春にはポートランド・グローバルイノベーションセミナー*にも参加し、先進的なポートランドのまちづくりを、広島にどのように生かせるかという視点で考え、「行政がやってくれる」ではなく「自分が動く」というまちづくりマインドを学びました。

安部:私は野球部に所属していた高校時代に多くの人に支えてもらったので、今度は自分が人のために何かしたいと思い、大学生になって最初にボランティアとして献血推進活動に参加しました。その後、広島の土砂災害のニュースを知り、被災地のボランティアに兄弟で参加しました。1年生の後期に地域イノベーションコース*に入り、2年生の授業で、西広島と廿日市でまちづくりのプロジェクトに参加しました。地域つながるプロジェクトでは、北広島町で親しまれている野草茶を研究し、



商品化をめざして活動しました。後期には入学前からの留学希望を叶えるため、アリゾナセミナー(海外セミナー)に参加しました。英語はうまくはなかったのですが、「当たって砕けろ、恥をかいて英語力を身につけよう!」という思いでしたが、現地でパスポートをなくしてしまっ大変なことになりました。警察に届け出るポリスレポートは全部英語なので、パスポートをなくした状況を必死で伝えました。結果的にパスポートは見つかって事なきを得たのですが、この経験で、英語力の必要性とともに必死になったら何でもできる!ということも学びました。

竹井:安部さんのパスポートの件は、国際センターでも対策を練っていたんですよ。最終的にパスポートが見つかったのですが、どうにかしようと必死で頑張ったという話を聞いて、ある意味よかったなと思います。東さんはグローバルコースに入った1年生のときは、とてもおとなしそうな印象で少し心配していましたが、こんなに貪欲に挑戦し積極的になっていることに、驚くと同時に嬉しくも思います。細田さんは、活動履歴を見るときれいにステップアップしていることが感じられるので、チャンスをしっかりつかんでいたんだなと。早田くんは、本学の教育理念である「地球的視野を持って社会に貢献できる人材の養成」を地で行くような活動歴で、ローカルとグローバル両方の視点を持った学生だと感じました。

入学前の思いを 大学での活動のきっかけに

市川:安部さんが活動を始めた理由には、野球部だった高校時代の経験があるようですが、他の皆さんのきっかけは?

東:自分を変えたい、という思いでした。高校時代は消極的だったので、自分がやりたいと思うことにもチャレンジできなかったのですが、修大に入学してから、人との出会いもチャレンジの機会もたくさんあって、どんどん積極的に活動するようになっていきました。

細田:私は英会話を幼少時から習い続けてきたので、英語が好きという気持ちが根底にあります。その気持ちに、高校1年生時の、オーストラリア・文化体験プログラムへの参加体験が加わりました。初めての海外で、今まで習ってきた英語を実践的に使った体験が心に刻み込まれ、大学生になっても、同じように英語で国際交流を進めたいと考えたことが活動のきっかけです。

早田:高校時代からボランティア活動をしたかったのですが、何もできないまま終わったので、その反動のように、大学入学後すぐに活動したという経緯です。





グローバルな視点から ～インターンシップ & バディ体験～

市川:東さんと細田さんは、3年生に正課のインターンシップも体験していますが、就業体験ではどのような思いを持ちましたか？

東:旅行会社でインターンシップをさせていただきました。旅行が好きなので、自分に合った業種かどうかを判断したかったからです。しかし、実際に体験してみると、少し自分の思っていたものとは異なる側面もあり、別の業界に目を向けるようになりました。就職先を選ぶ前に自己分析ができたことは、とてもよかったと思っています。

細田:私は、NPO法人でのインターンシップで、海外から訪れるゲストに広島や平和について知ってもらう活動に関わらせていただきました。被爆者の方のお話をうかがう機会や、平和公園に同行して説明を聞く機会もあり、広島生まれではない私が、広島について詳しく知ることができたのは貴重な体験でした。また、今自分が暮らしている広島に、こんなにも多くの外国人が興味を持って来てくれることを誇りに思いました。

竹井:東さんと細田さんはバディもされてい

ましたね。バディを経験する前後で変わったこと、経験から得たものは何でしょう？

細田:私はニュージーランドの男子留学生の担当でした。私はまだ2年生だったので、履修の仕方など自分も完全に理解できていない点をサポートしなければならなかったので、正直戸惑いました。他のバディ学生に相談したり、職員の方に助けてもらったりするうちに、担当期間の半年はあっという間に過ぎましたが、短いながらも、生活面も勉強面もサポートし合える良い関係を築けたと思います。バディをすることで交流にも力を入れたいと思うようになり、iCafeピアになりました。国際交流活動を行うことで学部を超えたつながりが広がったと実感しています。

東:私は中国人留学生の担当でした。アメリカ留学後だったので、英語を話したいという気持ちもあったのですが、振り返ってみると、中国人留学生のバディでよかったと感じています。1年間のバディ経験で、それまで自分が抱いていた中国へのイメージが変わりました。中国という国に対して興味が湧き、中国語も勉強し始めました。自分の関心の幅の広がるとともに国際交

流の輪も広がり、さまざまな活動に飛び込みやすくなりました。

ローカル & グローバルを 体験して

竹井:早田さんと安部さんは、地域活動に力を入れつつ、海外での体験もしていますが、海外に出てみたことでのプラスの面は何でしたか？

早田:私は地域イノベーションコースに入る前に海外に出て、そこから地域の視点を学んだので、広い視野で地域を見ることができました。海外に行ったことは、その後の学びに大きく影響したと思います。

安部:大学では社会科の教職課程を履修していますが、アリゾナセミナー（海外セミナー）に参加して、「英語って楽しい!!」と心から思いました。だから、もっと勉強して英語を話せるようになりたい、もっと海外で多くの経験をして、それを伝えられる先生になりたいと考え、通信教育で英語教員をめざすと決めました。アリゾナセミナーへの参加は、私の価値観を大きく変えるものとなりました。

エネルギーの源は？

竹井:皆さんを突き動かしているものは何でしょう？ 大学での生活が、正課の学修のみに終わっている学生もいます。でも皆さんは、正課以外でも自分で積極的に何かを見つけて取り組んで、2倍・3倍もの時間や労力をかけている。活動自体を楽しんでいることもあると思いますが、そのエネルギーの源は何ですか？

東:私の場合は、刺激いっぱい的大学生活の中で、勉強だけではもったいない、自分自身を変えたい、成長したいという強い思いが、原動力になったと思います。

早田:あまり大きな声では言えませんが、正課のカリキュラムをあまり意識していなかったことかなと(笑)。振り返ってみれば、本当に自分のやりたいことをやれた大学生活でした。「やりたいと思ったことはすぐやる!」。その積み重ねが、今の自分をつくっています。

細田:さまざまな活動を通じて、人とのつながりの大切さを痛感し、人と関わることの楽しさを覚えたことです。1年生の頃は、授業が終わるとアルバイトに行くだけという生活で、大学生活があまり楽しくなかったのですが、2年生からいろいろな活動に参加して、そんな思いは吹き飛びました。

安部:私も細田さんと同じで、最初は勉強してアルバイトをして、おもしろみのない生活でした。でも、「大学生活を楽しむも楽しまないも自分自身の問題。楽しみた



いなら行動しよう!」と心機一転。実際に、成功も失敗も経験しましたが、たとえ失敗しても、それは次につながるんだと信じて、挑戦し続けてきました。

正課と課外の学びが生む 成長への相乗効果

市川:ここまで授業以外の活動の話が中心でしたが、授業のほうはどうでしょうか？ 授業と授業以外の活動が影響し合っていることなど、大学全体の学びについて聞かせてください。

東:私はゼミで食品開発をしていて、広島のレストランと共同開発をしました。一方、地域つながるプロジェクトでは、プロジェクトを一から立ち上げ、どちらも一つのプロセスを最初から最後まで貫徹するという点で初めての経験でした。進行段階に応じて自分の意見をまとめたり、説明資料をつくったり、環境分析をしたり、それまでに持っていなかったスキルを体得できました。

細田:私は英語英文学科なので、授業数を重ねるごとに英語の語彙力やプレゼンテーションスキルなども身につきました。授業以外の活動では、国際交流を通じて相手の考えを知ること、自分の考えにも多様性が出てきました。仲間と交流する中で、自分の中に新しい価値観も生まれました。

早田:授業では、ただ知識を教わるだけではなく、自分で考える力が鍛えられました。

情報収集する方法もさまざまあり、一つの知識が別の知識へ、そこからさらに別の知識へと広げていけるようになりました。学外の活動では、何よりも人とのコミュニケーション能力が高まりました。学内外の人とのつながりで、思いがけないところから情報が得られたり、詳しい情報を知っている人を紹介してもらったりしたという点は、授業と授業以外の活動の相乗効果だと思います。

安部:人間と環境をさまざまな視点から学ぶ人間環境学部の授業の中で、広い視野が持てるようになりました。1年生のときにはぼんやりとしていた教員になる目標も、教育実習等を通して明確になり、想いも強くなりました。地域の人たちとの学外の活動では、コミュニケーションやプロジェクト進行の難しさをどう乗り越えるかという問題解決能力が高まりました。また、授業とそれ以外の活動の双方で学んだのは、準備の大切さです。教育実習も地域活性化の提案も、事前の綿密な準備が成否を左右することを、身をもって感じることができました。

竹井:4人の話を聞いて、授業で学んだ知識や技能を課外活動の中で実践することで、それぞれの成長を実感できていたんだなと思いました。皆さんは意識していないかもしれないけれど、知識・技能と体験・実践のバランスがとてもうまくとれているなと感じました。

卒業後も続くそれぞれの道

市川:一人ひとりの豊かな活動体験を経て、皆さんはどのような道を選ばれたのでしょうか？ 理由もあわせて教えてください。

東:私は広島県府中市に本社がある鉄工メーカーに就職予定です。留学先のさまざまな場面で日本の技術のすばらしさを目の当たりにしたことで、世界展開している企業で働きたいと思い志望しました。加えて、地元に残って地域貢献もできる点も志望動機の一つです。



細田:これまでの国際交流経験や語学力等を自分の強みとして、それらを生かせる道に進みたいと思っています。

早田:広島県東広島市にある食品の加工機械や製造販売を手がけるメーカーに就職予定です。2年前から地域イノベーションコースの授業で行った「豊栄くらす」のプロジェクトがきっかけで知りました。地域にもグローバルにも展開していますが、特に地域貢献に力を入れていることから志望しました。

安部:私は、英語教員の免許を取得する通信教育を受けながら、カナダ・トロントでの1年間のワーキングホリデーを予定しています。現在はビザの抽選待ちの状態ですが、カナダでの生活で、語学力を磨くとともに、いろいろなものを見て、聞いて、感じて、生徒にその体験談を話せる英語教員になることが、今の目標です。

残りの学生生活も“やりたいこと”に向かって邁進

市川:皆さんの大学生生活もあと半年。残りの学生生活の目標を教えてください。

東:社会人になると勉強する時間も取りにくいと思うので、英語力向上のための授業を履修したり、学習支援センターを利用したり、英語多読マラソンにも参加予定です。また、商学部の知識も入社後に役立つので、簿記やビジネスファイナンスについてさらに知識を深めるために勉強しています。

細田:今までに比べると若干自由な時間も増えたので、英語以外の言語を勉強して

みようと思ひ、韓国語の勉強を始めました。卒業までには、簡単な会話ができるレベルまで到達したいです。学内・学外を問わず、自分ができそうだな、やってみたいなものにどんどんチャレンジして、学生生活最後の半年間を充実させたいと思っています。大学時代の経験をベースに、広く物事を見て、考えて、周囲に影響を与えられるような社会人になりたいです。

早田:ゼミで研究している、農業の後継者問題について深めていきたいです。また、2年次から関わってきた「もとまちカフェプロジェクト※」の集大成として、引き継ぐ後輩たちや、街の人々に、何か成果を残せるように頑張りたいです。

安部:カナダで過ごす1年間という時間を無駄にしないよう、念入りな準備期間にあて、夢の実現のために頑張ります。

チャレンジしたい修大生へ

市川:何かに挑戦してみようかな、挑戦したいなと考えてはいても、最初の一步を踏み出せない学生もいると思います。そんな学生たちに、皆さんの経験を踏まえたメッセージをお願いします。

東:勉強面だけだともったいない!やりたいことを見つけるためには、周囲の先生方に頼ったり、掲示板で情報を得たりするとよいと思います。情報を収集して、やりたいと思ったらすぐ行動。行動することが次のアクションにつながります。自分の好



奇心を大事に、頑張ってください。

細田:活動するチャンスはいくらでもあります。受け身ではなく、自分からどんどん動き回って、多くの人と交流してチャンスをつかみ、チャレンジしてください。

早田:私がこれまで指針にしてきたのは、「学べるときに学べ」、このひとことに尽きます。いまを大切に、好きなことに精一杯取り組んでください。

安部:自由にいろいろなことができるのは学生時代だけ。やりたいと思ったことはやる。失敗しても、それは必ず成長につながるので、失敗を恐れずに積極的に挑戦してください。

終わりに ～一人ひとりの STORY を聞いて～

竹井:皆さんの言葉が、最近出会ったユニークな表現に重なりました。それは「チャンスの神様には前髪しかない」というもの。チャンスの神様は早足で前から歩いてくる。だから「あ、これだ!」と思ったらすぐにつかまないと通り過ぎてしまう。通り過ぎてしまったら、後ろ髪がないのもうつかむことはできない。皆さんはチャンスの神様が歩いてきたとき、瞬時に自分の気持ちと照らし合わせて(瞬時に判断して)、その前髪をつかんできた人たちだと思います。それが積み重なって、今の4人があるんだなと。4人が言ってくれたように、私も修大生の皆さんに、「チャンスの神様の前髪をつかもうよ!」と伝えたいですね。

市川:皆さん一人ひとりが豊かな経験をしながら成長してきた様子が感じられて、私も嬉しく思います。大学としても、「広島修道大学で学ぶことができてよかった」と思えるようにプログラムを充実させて、多様な学びの環境をさらに整えていきたいと思っています。これから皆さんがどのような充実した人生を歩むのか、楽しみにしています。卒業後も時々大学に近況報告してください。それが私たち教職員の励みになります。本日はありがとうございました。

(2017年9月29日 本学本館4階 第1応接室にて)

主な活動の流れ～まとめ～



東 奈々香さん
(ひがし ななか)

成長ポイント

活動するたびに広がる興味関心。1番の成長は積極性が身についたこと。

1年次

●グローバルコース (～4年)

2年次

●グローバルコース留学(PIA*)
*PIA:アメリカ、オレゴン州メルルハースト大学付属機関であるパシフィックインターナショナル・アカデミー

3年次

●パディ
●地域つながるプロジェクト
●ボランティア
→青年海外協力隊主催の平和公園でのガイドボランティア
●インターンシップ

4年次

●日本語・日本文化セミナー*のホストファミリー
*日本語・日本文化セミナー:P.12_news5をご覧ください。



早田 志也さん
(はやた ゆきや)

成長ポイント

広い視野で物事に取り組む力がついた。卒業後も地域に貢献していきたい。

1年次

●ボランティア
→東北復興支援、広島土砂災害復興支援
●カンボジアのスタディーツアー
●地域イノベーションコース (～4年)

2年次

●ベトナム交流学習セミナー(海外セミナー)
●もとまちカフェプロジェクト

3年次

●ポートランド・グローバルイノベーションセミナー
●もとまちカフェプロジェクト

4年次

●もとまちカフェプロジェクト



細田 成美さん
(ほそだ なるみ)

成長ポイント

英語力アップだけでなく、人との交流でさまざまな考えを知り、人間力もアップ。

1年次

●ウォリックセミナー(海外セミナー)
●ボランティア
→広島市による平和公園でのガイドボランティア

2年次

●パディ
●iCafeピア

3年次

●インターンシップ
→特定非営利活動法人ワールド・フレンドシップ・センター
●RA
●iCafeピア
●図書館ピア・サポーター

4年次

●RA
●図書館ピア・サポーター



安部 里音さん
(あべりお)

成長ポイント

多様な活動を通じて自分の興味が見えてきた。“英語教師”という夢が明確に。

1年次

●ボランティア
→献血推進活動(主催:日本赤十字社)
→個人的に、広島土砂災害の復興支援に参加。

2年次

●地域つながるプロジェクト
●イノベーション・プロジェクト

3年次

●アリゾナセミナー(海外セミナー)
●地域つながるプロジェクト
●イノベーション・プロジェクト

4年次

●ワーキングホリデーに向けて準備中

●…座談会の中で話に出てきた活動。

用語解説(文中の※印のついた用語を紹介しています。)

(50音順)

■iCafeピア

iCafe(協創館1階)で国際交流のサポートをする学生スタッフ。

■海外セミナー

海外の大学での語学研修と異文化体験を行う。期間は、夏期休暇や春季休暇中の3～6週間の短期から、中期(半年)、長期(1年)のものまでである。

■グローバルコース

留学前の学修を経て、2年生後期には4～5カ月の留学を経験。留学中はホームステイをしながら海外の大学で英語学習をするとともに、現地で就業体験ができる。

■地域イノベーションコース

1年次から地域イノベーションに必要な基礎的な知識とスキルを学び、専門的な知識やスキルを習得する。

■地域つながるプロジェクト

大学で学んだことを活かしながら、地域の課題を調査・研究するプロジェクト。

■図書館ピア・サポーター

資料検索のサポートや館内環境の整備、図書館をより良くするための取り組みをする学生スタッフ。

■パディ

交換留学生と本学学生が1対1となり、広島での生活や諸手続きをサポートする制度。

■ポートランド・グローバルイノベーションセミナー

ポートランド州立大学の講義と現地フィールドワークを組み合わせたプログラム。

■もとまちカフェプロジェクト

地域内外に人的交流を創り出し、「基町の内と外を繋ぐ」ことを目的とする広島市立大学と本学の学生が主体となった取り組み。

■RA: Resident Assistant(レジデントアシスタント)

留学生と一緒にインターナショナルハウス(Iハウス)で暮らし、大学生活や日常生活をサポートする。

Topics 1 韓国・啓明大学校 申一熙総長へ名誉博士号を授与(9/13)

9月13日、学術ホールにて海外協定校・啓明大学校(韓国)の申一熙総長への広島修道大学名誉博士称号授与式を執り行い、約150名が出席しました。申総長が教鞭を執られてから「50年」という節目を迎えられたこと、また、これまでの啓明大学校と本学との国際交流に果たされた功績を称えての称号授与です。称号授与の後には、申名誉博士より「地球市民の教育」をテーマにスピーチいただき、古典哲学をもとにテロや紛争など不安定な国際情勢を説かれ、結びとして異文化を尊重し弱者を思いやる精神を学生に教育する必要性を訴えられました。

本学は、1996年1月に啓明大学校と学生・教員の交流協定を締結し、1997年度から学生の交換をスタートしました。2017年度までに両大学合わせて約850名の学生・教職員が交換留学などのプログラムに参加しています。今回の授与式は、交流の成果とその重要性を改めて認識する場となりました。

※なお、申名誉博士のスピーチの全文(日本語)は本学HPに掲載しております。



写真左:市川太一学長 右:申一熙総長

Topics 2 ハワイ州上院議員 ブライアン・タニグチ氏による講演会を開催(10/3)



10月3日、本学7号館学術ホールにて、広島県・ハワイ州の友好提携締結20周年記念事業で来広されているハワイ州上院議員ブライアン・タニグチ氏による講演会を開催し、約140名の学生・教職員が出席しました。「Born a Japanese American」と題し、ファミリーヒストリーや議員になられたきっかけ、広島からの移民などについてお話いただきました。かつて移民であった日本人の経験を知ることは、現在の日本での外国人労働者の労働環境について考えるきっかけにもなります。また、タニグチ氏は移民であった祖父や当時を知る父にもっと話を聞いておけば良かったと語られ、「今すぐにできることとして、家族史、家系の話をしっかり聞くことがあります。語り継げるのはあなたたちしかいません。」とアドバイスをくださいました。講演後には、人種差別の問題や、ハワイ州で見られる広島の文化など多くの質問にお答えいただきました。

なお、この講演会は英語で行われ、通訳コースの第1期生4名が通訳を担当しました。また、遠隔授業のシステムを利用して広島修道大学附属鈴峯女子高校にも中継を行いました。

Topics 3 長期インターンシップを実施(8/4～9/6)

今年度から新たに「長期インターンシップA」が開講され、8月4日から9月6日の間、13名の学生がそれぞれ8つの地元企業・団体で就業体験をしました。長期インターンシップの特徴である、一つの企業でさまざまな職種を体験し、日常の会社の動きに触れ、広く大きな視点から組織全体を俯瞰する機会に恵まれました。学生からは、「企業の表面しか見えなかったものが、多くの働く大人と接触し、話ができて、労働観、職業観、人生観に大きな刺激となりました。」といった充実した声が聞かれました。



【実習先企業・団体】 ANAクラウンプラザホテル広島、オタフクソース株式会社、株式会社近畿日本ツーリスト中国四国、坂町役場、株式会社JTB中国四国、広島市信用組合、三島食品株式会社、広島修道大学

Topics 4 海外留学前の学生を対象にお好み焼き教室を開催(8/8)



8月8日、9号館調理実習室にてお好み焼き教室を開催しました。この企画はオタフクソース株式会社へ就職した本学卒業生の発案によるもので、7名の学生が参加しました。海外留学を控えた学生に、留学先でお好み焼きを調理し、食文化の紹介やコミュニケーションを図るきっかけにもらうことを目的として本学で初めて実施されました。オタフクソース株式会社お好み焼課の講師の方が、現地で入手することのできない食材の代替案、調理の際に使用する英語、生地返し方、温度確認の仕方などを教えてくださいました。参加した学生は「ふわふわで美味しいお好み焼きを作ることができました。」



「留学先で、美味しいお好み焼きを作って広島の文化を伝えたいと思います!」と語ってくれました。

Topics 5 トレーニングルームの機器をリニューアル(7/15)

7月15日、トレーニングルームの機器をリニューアルしました。トレーニング機器は世界のスポーツ施設で採用されているブランドを導入し、主に体の筋肉を鍛える機器13種類を設置しました。トレーナーによる指導を受けることができるので筋力トレーニングや健康管理など、目的に応じて多くの学生が利用してくれることを期待しています。



Topics 6 ファシリテーションのスキルとマインドを実践(8/2・8/29)



8月2日、健康科学部心理学科における、アクティブ・ラーニング・プログラム事業として、「ファシリテーションのスキルとマインドを学ぶセミナー」を、本学協創館にて開催しました。「ファシリテーション」は、集団での問題解決やアイデア創造など、さまざまな知識創造活動を支援し促進する働きとして注目されています。参加学生は、人文学部講師の田坂逸朗先生より、ファシリテーションに関する基礎的知識を学び、グループに分かれて、集団討議の場でのファシリテーターの役割について意見を申し合いながら考えました。



また、8月29日には、「第3回廿日市市生徒会サミット」にも参加し、学んだスキルを活用して中学生によるグループ協議でのファシリテーター役を務めました。日頃から学んできた知識や技術を実践することによって、これからの学びと成長のきっかけとなる貴重な機会となりました。

Topics 7 英語多読マラソン「前期多読促進月間」の表彰式を開催(7/19)

7月19日、協創館1Fまなびホールにて、英語多読マラソンの「前期多読促進月間」表彰式を行いました。英語多読マラソンは、学生生活を通じて英語学習に取り組む姿勢を身につけてもらうため、4年間で421,950語を読むことを目指すプロジェクトで、英語教員、学習支援センター、図書館の共催で実施しています。前期は6月が多読促進月間で、この間に読んだ英語の本の語数が多かった学生を、人

文学部英語英文学科とそれ以外の学科で、各10名について表彰し、授業とは関係なく取り組んだ3名を特別賞として表彰しました。6月の参加総数は285名で、1位の学生の語数は67,601語でした。「多読」は、英語で書かれた本を「多く読む」ことで英語力が自然と身につくという手法です。今回取り組んだ学生からは、「多読を始めて読むスピードが速くなりました!」といった感想が聞かれました。



写真左:入賞学生 出崎健太さん 右:入賞学生 永山雄也さん



写真左:入賞学生 小高みどりさん 右:人文学部 J.M.Ronald教授

Topics 8 留学生対象フォトコンテストを開催(7/25 ~ 8/10)

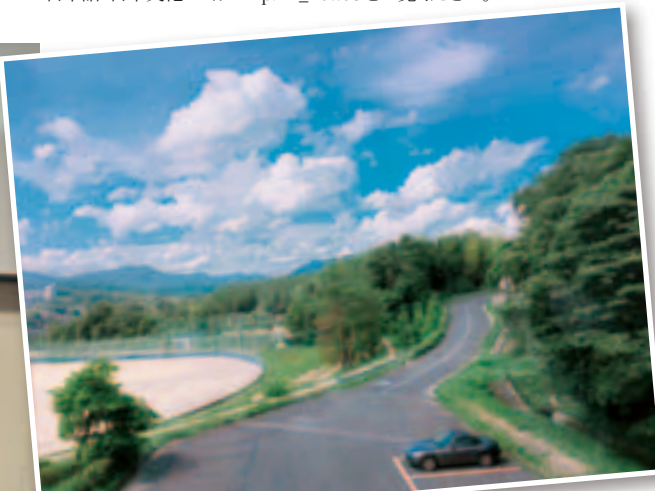
国際共修科目の「多文化交流プロジェクト」の履修生がフォトコンテストを企画し、8月2日に表彰式を行いました。このコンテストは、日本語・日本文化セミナー*に参加している留学生を対象に、「修大のここがすごい／面白い／きれい」をテーマに作品を募集しました。17名の応募があり、学生・教職員による投票総数122票の結果、1位は6号館横の駐車場とグラウンドの景色を撮影したMin Heejinさん(韓国・仁川大学)の作品、

2位はセミナーハウスを撮影したMa Minghaoさん(中国・西南政法大学)の作品となりました。また、得意のカメラで12枚のすばらしい写真を提供してくれたWes Xiaさん(イギリス・ウォリック大学)は特別賞に選ばれました。作品を通して、学生、教職員が普段何気なく見ていたキャンパスの風景を、留学生の目からみた修大の新たな景色として楽しむことができました。

*日本語・日本文化セミナー:p.12_news5をご覧ください。



1位を獲得したMin Heejinさん



Min Heejinさんの作品

news 1 前期学位授与式を挙行(9/27)

9月27日、2017年度前期学位授与式を7号館学術ホールにて挙行了。開式の後、市川学長より、学部生41名に学位記を授与しました。その後、学長告示、来賓祝辞、学歌斉唱により、修了者の新たな門出を祝いました。



news 2 高大連携公開講座「はばたけ未来に向けて」を開催(8/2・3)

8月2日・3日、高大連携の取り組みの一環として、高校生向け公開講座「はばたけ未来に向けて—大学での学びと私たちの未来」を実施しました。2日間で158名の高校生が参加しました。本講座は、大学での学びや、本学の学びの内容について、高校生に理解してもらうことを目的に開講し、2018年4月に開設予定の国際コミュニティ学部を含めた全7学部の紹介をしました。高校生にとって大学と高校の学びの違いを感じ、どのような分野に興味があるのか、大学では何を学びたいのかを考えるきっかけとなりました。



news 3 災害復旧・復興支援ボランティアに参加 東北(8/7-8/10、8/13-16) 福岡(9/7・8)

今年度は、昨年同様「全国大学間連携災害ボランティアネットワーク」が主催する東北での復興支援活動に11名の学生が参加し、加えて7月に発生した「九州北部豪雨」に対して広島県社会福祉協議会が提供する復旧支援活動に1名の学生が参加しました。宮城県気仙沼市や石巻市で活動した学生は、他大学の学生や現地の方々と共に漁業支援や仮設住宅の視察などを行い、福岡県朝倉市を中心に活動した学生は、被災した家



屋の土砂かきなどを行いました。それぞれの地域で、震災当日や震災後の状況を伺うことにより、あらためて震災と向き合い、大規模災害における学生の役割について熟慮する機会となりました。



news 4 澄川ゼミによる三吉屋食品(株)との共同研究商品販売(8/1-8/31)

マーケティングの研究を行う商学部の澄川ゼミでは、昨年に引き続き、広島市内でカフェ風車など複数の飲食店舗を経営する三吉屋食品株式会社とのコラボレーションによる商品企画開発を実施しました。今年は、SNS映えするメニューを考えたり、食欲の落ちる夏でも食べたい食材を使ったりと、ターゲットやコンセプトを練った商品を提案し、7つのメニューの商品化が決まりました。8月1日から8月31日までカフェ風車(ひろしま駅ビルアッセ店とアクア広島センター街店)にて期間限定で販売されました。



news 5 日本語・日本文化セミナーを開催(5/17-6/24、7/3-8/3)

5月17日から6月24日と、7月3日から8月3日まで、「日本語・日本文化セミナー」を開催しました。5・6月のセミナーにはアメリカ・アリゾナ州立大学から20名の学生が参加し、7・8月のセミナーにはこれまでで最多となる7カ国・地域、8大学から28名が参加しました。セミナーの期間は1カ月間で、日本語と日本事情の授業を受けたほか、フィールドトリップとして、平和公園での平和学習や、宮島で厳島神社の見学などを行いました。この留学で経験したこと、学んだことを、帰国後に生かしてもらうことを期待しています。



news 6 修道力フォーラムを実施(8/4)

8月4日、第2回FD・SD研修会「修道力フォーラム」を開催しました。テーマは「点検・評価にみる広島修道大学」です。第1部「学部・研究科の自己点検・評価」では、学部・研究科長から、認証評価の実施に向けた、各学部・研究科の自己点検・評価の報告がありました。

第2部「データからみる広島修道大学」では、総合企画課から、学内のデータと学生の成長を促すプログラム等を関連づけて、本学の特徴、傾向について報告がありました。(参加者:教員150名、職員118名ほか、合計274名)



news 7 第13回広島修道大学学長杯水泳競技大会を開催(8/5)

8月5日、第13回広島修道大学学長杯水泳競技大会「修大チャレンジカップ」が修大フォーラムプール(25m×8レーン公認)で開催されました。今回で13回を数える本大会には、崇徳、広島観音、広島国際学院、広島国泰寺、広島皆実、舟入、美鈴が丘、基町、修大附属鈴峯女子の9校が参加し、本学水泳部と合わせて総勢124名が24種目の競技に挑みました。最優秀選手は、個人5種目、リレー2種目に出場し、その全ての種目で優勝、リレーを含め大会新記録を4つ樹立した門田七海さん(広島観音高校1年)が受賞しました。今年度は、大会新記録が9種目で樹立されるなど、高校生との交流を通して大学水泳の楽しさ、やりがいを伝えることができました。



最優秀選手賞を獲得した門田七海さん



広島観音高校の皆さん

news 8 ひろしま中小企業合同運動会を開催(9/3)



9月3日、本学体育館で「ひろしま中小企業合同運動会」が開催されました。全国健康保険協会(協会けんぽ)が主催し、広島県内の複数の中小企業に参加いただく、健康増進と交流を深めることを目的としたレクリエーションイベントです。本学学生は2回の事前説明会と前日準備・リハーサルから参加させていただき、サポーターとして運営に携わりました。当日は、各種目の出場選手の誘導、攻略ポイントの説明などの役割を担い、企業の方々と交流を深めました。協会けんぽの方からは「学生の皆さんがチーム内でリーダーシップを発揮してくれたり優しく言葉を掛けてくれたり、盛り上げてもらえて本当に良かった。」との感想をいただきました。

news 9 教員免許状更新講習を開催(8/2-4・7・8)

8月2日から8日までの平日5日間、教員免許状更新講習を本学で開催しました。必修6時間、選択必修6時間、選択18時間の合計30時間の講習があり、約110名の方々が受講されました。講習は講義および修了試験で構成され、「教育の最新事情」、「法令改正及び国の審議会の状況等・学校の危機管理」、「教育相談(いじめ及び不登校への対応を含む。）」、「児童・生徒・保護者との関係をどのようにするか?」について、最新のデータや研究成果を知るとともに理解を深める講習となりました。



news 10 サークル懇談会を開催(7/15)



7月15日に、「2017年度サークル懇談会」を開催しました。教職員顧問と学外指導者、学友会執行部並びにサークル幹部学生との合同会とし、市川太一学長、松井敏同窓会長、山本繁生広島修道大学サークルOB会連合会代表幹事をはじめ、多くの方にご参加いただきました。学長・同窓会長・修サ連代表幹事のご挨拶、出席者紹介の後、2016年度サークル援助実績及び学外指導者のサークル支援にかかる後援会援助金の説明、意見交換を行いました。

今年度は懇談会に加え、7月15日に機器をリニューアルしたトレーニングルームを披露しました。

news 11 教育懇談会を開催(9/16ほか)

9月16日、広島修道大学後援会と本学が共催する「教育懇談会」が本学で開催され、約230名の保証人が参加されました。当日は、広島銀行代表取締役会長・ひろしま美術館理事長兼館長の角廣勲氏による講演会「広島経済と文化・芸術について」がありました。昼食会をはさんで、午後からは学部別説明会と個人面談を行いました。学部別説明会では、学部の教育、学生生活、キャリアサポートについて説明があり、個人面談ではゼミ担当教員等と保証人が面談を行いました。なお、教育懇談会は本学の他に、岡山、福山、松江、山口、松山会場でも開催しています。



講演される角廣勲氏

卒業生からの便り

JICA 青年海外協力隊員
(現職参加制度を利用して JICA に参加。)
2016年10月～2017年10月

坂本 真弓 (さかもとまゆみ) さん
人間環境学部 人間環境学科 2007 年 3 月卒業



在学時に力をいれていた環境活動を、卒業後もさまざまな形で続けておられます。現在、JICA 青年海外協力隊員としてスリランカで活躍中の坂本さんより、メッセージをいただきました。

学生時代の環境活動が今につながる

2004年に環境サークル「がんぼ」を仲間と創設し、ひろしまフーラーフェスティバルでごみの分別運動を始めたり、地域の方と太田川の葦で大きな葦舟を作るプロジェクトに参加したりと、学生時代は環境活動に没頭した4年間でした。「がんぼ」は現在でも活動していると聞き、10年以上バトンをつなぎ続けられていることをとても嬉しく思いました。

在学当時の大きな活動としてもう一つ、大学から奨学金をいただいて、バングラデシュに行ったことが挙げられます。現地では、トイレづくりやゴミ拾いなどをしたのですが、自分たちの活動が理解してもらえないことにショックを受けました。卒業して数年経ってもこの衝撃が忘れられず、当時お世話になったバングラデシュの方の協力を得て、5年前に「Sakamoto Scholarship Foundation」という奨学金制度を設立しました。毎年、バングラデシュの子どもたち20名に奨学金を給付し、教育機会の支援を行っています。

さらに、自分自身も国際支援についてもっと深く学ぶ必要があると思い、大学院に通いました。仕事をしながらの論文執筆は大変でしたが、途上国について研究できたことは有意義で、修了後にはもっと国際協力に従事したいという気持ちが溢れてきました。

JICAとして環境教育の支援を行う

仕事をしながらも国際協力活動をしたいと悩んでいた時、青年海外協力隊は仕事を辞めずに応募することができると知り、チャレンジしました。現在は、環境協力隊員として派遣先のスリランカで幼稚園や小学校の子ども、保護者の方に3R(リデュース・リユース・リサイクル)やごみの分別、環境問題について教えています。スリランカは、ゴミに対する認識が薄い国で、3Rを知っている人は少なく、環境問題について考える機会、教えてもらう機会がありません。環境教育が現地の方に引き継がれることが重要だと考えているので、幼稚園や小学校では、子どもたち



3Rを幼稚園児に教える

だけでなく先生方にもレクチャーを行っています。そんな中、今年4月、コロンボの最終処分場のゴミ山で崩落事故が起き、死者がでました。この事故により、国内に一つもなかったごみ焼却場の建設が決定しました。事故が起こって問題が改善されるのは、悲しいことですが、一歩ずつ進歩していく姿を見られるのはとても嬉しく、この国で環境教育をする意義深さを感じます。



物語「地球にはゴミがいっぱい」を紹介

相手も自分も大切にしながら、チャレンジを続けたい

仕事や活動において大事にしていることは、「人の大切なものを、大切にすること」です。人とは、相手だけではなく、自分も含みます。大切なものとは、人や物、気持ちや考え方です。相手の大切なものが何かに気付くことは、案外難しいことかもしれません。言葉の裏にある文化や風習を紐解くと、気付けることがあることをスリランカでの生活で知りました。自分の気持ちを形にしたり、行動するのは難しいこともあります。しかし、ちょっと勇気を出して一歩踏み出してみると、道が拓けます。環境活動を通して、奨学金制度の設立やJICAの活動など国際協力の幅を広げてくれたことは、とても幸運だと思っています。

これからも“ちょっとの勇気”を出してチャレンジを続けたいと思います。



日本から届いたおもちゃを子どもたちへ

修大生へのメッセージ

ぜひ、自分の素直な気持ち、人との出会いを大切にしてください。その想いと一歩を踏み出す少しの勇気さえあれば、人との出会いがあります。人との縁から道は拓けていきます。そして、さらに行動をしてみてください。できれば日本だけでなく世界に行くと、いろんな人がいることを知り、悩んでいたことがクリアになったり、新しい目標ができたりしますよ。とても面白いので、ぜひチャレンジしてみてください。

※文の内容は、2017年9月末現在となります。

修大人

警察庁指定防犯ボランティア団体
「スリーアローズ」で代表を務めています。
～安全・安心なまちを目指して～



谷元 隆司さん
(たにもとりゅうじ)
法学部法律学科3年
(広島県立庄原実業高校出身)



「スリーアローズ」に入団しようと思ったきっかけは何ですか？

将来、県民の安全・安心を守ることができ警察官になるため大学に入学し、警察官の職務に触れることができる活動をしたと思ったのがきっかけです。ピア・カウンター*でスリーアローズのチラシを発見し、犯罪を抑止するために大学生の自分にもできることがあることを知り、地域の皆さんが犯罪に巻き込まれることなく幸せに暮らしていけるために活動したいと思い入団しました。

1年生の後期から代表となり、今年で3年目になります。

※ピア・カウンター: 本学協創館地下1階のひろしま未来協創センター内にあり、ボランティアの紹介を受けられる場所。

活動を始めてみて、良かったことや大変だったことを教えてください。

良かったことは、社会で働いている方や他のボランティア団体の方と会話をする機会が多いことです。さまざまな方と会話することで、団体を運営していくための考え方や取り組み方を知ることができ、代表としてどのように行動するべきか学ぶことができました。大変だったことは、ボランティア活動を行うための準備です。防犯教室では、子どもたちにうまく伝えられるように打ち合わせや資料作成に力を入れたり、高齢者を対象とした教室では、特殊詐欺被害防止の寸劇練習をするなど、準備することはたくさんありますが、その分とてもやりがいを感じます。



活動を通して自分自身の成長を感じたことはありますか？また、この経験を自分の将来にどう生かしていきたいですか？

ボランティア活動を通じて、責任感をもって行動するようになりました。防犯教室や自転車盗難被害防止活動など実際にボランティアを行うにつれて、スリーアローズの活動が少しでも犯罪の抑止に繋がり、安心して生活できる社会になるよう貢献しなければならないと考えるようになりました。この経験を活かし、将来の夢である警察官になり、住民が安心して生活できるように守っていくという責任感を持ち、犯罪に立ち向かっていきたいです。



最後に、メッセージをお願いします！

スリーアローズの代表として、団体をしっかりとめていくと同時に、このボランティア活動を通じてメンバーが社会のことを学び、この経験が将来の役に立ってほしいという思いで活動しています。また、ボランティア団体として、1件でも多くの被害が減少することを願って活動していきたいです。そして、1つの活動に縛られることなく、さまざまな団体と連携し、幅広い活動を行いたいと考えています。今後のスリーアローズの活動にご期待ください！

2017 作文コンテスト

テーマ「わたしのまちを
世界とつなげる」

応募総数639編

多数のご応募ありがとうございました！

私たち学生審査員も審査しています

今年度の応募作品数は、中学校部門228編、高校部門411編、合計639編。多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

現在は学生審査員(2名)を決定し、作品の選考を進めています。受賞結果は11月28日本学ホームページで発表予定です。

【学生審査員】写真左から

西丸 拓也(にしまる たくや)さん
法学部法律学科3年(広島県立広島井口高校出身)

日ごろの学習において自分で書くことはよくありました。ある時にふと「周りのみんなはどんな文章を書いているのだろう」と思ったことが、学生審査員に応募したきっかけです。みなさんの作品から刺激を受けて、自分も“つなげる”意味を考えていきたいです。

仁尾 暢良(におのぶよし)さん
法学部国際政治学科1年(広島県立廿日市高校出身)

「将来、本と関わる仕事に就きたい」「文章の良い部分、問題点を見出す力をつけたい」という思いから、今回、学生審査員に応募しました。新しい作品との出会いは、自分の新しい挑戦でもあります。しっかり向き合って務めたいと思います。



刊行物 books

本学の先生方の著書を紹介します

『エコクリティシズムの波を超えて―一人新世の地球を生きる―』

塩田 弘 他著 音羽書房鶴見書店 2017年5月31日 436ページ 3,800円(税別)

本書は、エコロジーの視点を取り入れた文学批評「エコクリティシズム」により、作家・作品・テーマ研究を追求した研究論集であり、さまざまな視点から人間と地球環境との関係について考察する。全四部、25の論考に加え、スコット・スロヴィックによる序章「第四の波のかたな―エコクリティシズムの新たな歴史編纂的比喻を求めて」と、巽孝之による終章「聖樹伝説―ヨセミテの杜、熊野の杜」により構成される。



Hiroshima Shudo University Event Guide

EVENT CALENDAR

GUIDE

10 October

10/26(木) 災害復旧・復興支援のためのボランティア活動活動報告会
10/28(土) 公開講座「ダイナミックな変化の中にある交通」②

11 November

11/ 2(木) 休講日(修大祭準備)
図書館整理休館日
11/ 3(祝・金) 修大祭
11/ 4(土) 開学記念日
11/ 6(月) SPI実力アップセミナー(3年生)
11/ 7(火) 第3学期試験(11/13迄)
11/11(土) 公開講座「―健康栄養学科開設記念講座―食べ物機能性から健康を考える」①
公開講座「―健康栄養学科開設記念講座―食べ物機能性から健康を考える」②
11/14(火) 防災訓練
11/16(木)・17(金) 第6回就職ガイダンス(3年生)
日本学生支援機構奨学金返還説明会
(2018年3月貸与終了卒年次生対象)
11/18(土) 公募推薦入学試験
11/19(日) 指定校・附属校推薦入学試験
11/20(月) SPI実力アップセミナー(3年生)
11/24(金) 公募・指定校・附属校推薦入学試験合格発表
11/25(土) 公開講座「―健康栄養学科開設記念講座―食べ物機能性から健康を考える」③
公開講座「―臨床心理相談センター開設記念講座―『臨床心理学へのいざない』」③
11/27(月) SPI実力アップセミナー(3年生)
11/28(火) 第2回留学生のための就職ガイダンス
11/29(水) 第2回大学院生のための就職ガイダンス
11/30(木) 図書館整理休館日
派遣交換留学出願締切
(アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ベトナム、ドイツ、チェコ)

12 December

12/ 1(金) 女子学生セミナー①(3年生)
12/ 2(土) 公開講座「ヨーロッパと<記憶>」①
12/ 4(月) 公務員ガイダンス <国家公務員>(全学年)
SPI実力アップセミナー(3年生)
12/ 5(火) 公務員合格体験報告会(全学年)
12/ 7(木)・8(金) 第7回就職ガイダンス(3年生)
12/ 9(土) 公開講座「ヨーロッパと<記憶>」②
入試直前対策講座&相談会(福山)
適正診断テスト(R・CAP)解説会(3年生)
適正診断テスト(R・CAP)ワークショップ(3年生)
12/10(日) 入試直前対策講座&相談会(広島)
12/11(月) SPI実力アップセミナー(3年生)
公務員ガイダンス<広島県、警察>(全学年)
12/13(水)~21(木) 社会人入試(社会学専攻・教育学科・人間環境学部)願書受付
指定校推薦入試(商学部・後期日程)願書受付
外国人留学生入試願書受付
編入学・学士入試(商学部のみ)願書受付
12/16(土) 公開講座「ヨーロッパと<記憶>」③
12/17(日) 入学準備学習プログラム 第1回キャンパス学習
12/18(月) 図書館 冬の図書長期貸出開始
12/21(木)・22(金) 第8回就職ガイダンス(3年生)
12/26(火) 冬季休暇(1/4迄)

2018

1 January

1/ 4(木) 冬季休暇終了
1/ 4(木)~12(金) 学部一般入試(前期日程)、大学入試センター試験利用入試
(前期日程)、一般・センター併用入試インターネット出願受付
<登録は1/12(金)15時締切><窓口受付1/15(月)・16(火)>
1/ 5(金)・9(火) 就職マナー講座(3年生)
1/ 6(土) 外国人留学生・指定校推薦(後期日程)・社会人・編入学・学士入学試験
1/ 9(火) 後期・第4学期試験時間割発表(時間割に注意)
1/11(木) 図書館 冬の図書長期貸出返却日
外国人留学生・指定校推薦(後期日程)・社会人・編入学・学士入試合格発表
1/12(金) TOEIC L&R-IP等試験
補講日・試験準備日
1/13(土)・14(日) 大学入試センター試験
1/15(月)・16(火) 第9回就職ガイダンス(3年生)
1/19(金) 後期・第4学期試験(1/25迄)
学長表彰推薦書提出締切
1/22(月) 図書館 春の図書長期貸出開始
1/29(月) 女子学生セミナー②(3年生)
1/31(水) 図書館整理休館日

■保健室より

イベント

AED講習会

12月予定

献血セミナー

11月29日(水)
16:40~17:40

詳細は本学Webサイトにてお知らせします。

これからの季節、朝晩の急激な温度変化により体調を崩しやすくなります。日頃から規則正しい生活を心がけ、抵抗力を高め、体調管理に気をつけましょう。

感染症対策

- 1 外出後、食事前には石鹸で手洗い・うがいをする。
- 2 咳エチケット(咳がある時はマスクを着用する)を習慣化する。また、マスクを各自で用意しておく。
- 3 発熱、風邪症状、嘔吐、下痢などがある場合は、早めに医療機関を受診する。

インフルエンザなどの感染症と診断されたら保健室へ報告してください。

【問い合わせ先】保健室 Tel (082)830-1118

ご寄附いただきました方々へ、
心より御礼申し上げます。

学園への寄附 (2017年6月~8月)

匿名(1名)..... ¥140,000

株式会社JTB中国四国 広島支店 ¥50,000

今後寄附をお考えの方は
総務課(Tel.082-830-1104)まで
お問い合わせください。



部長・主将に直撃取材

拳法部

この夏のイチオシNEWS 全国大会出場、1年生も入賞達成！



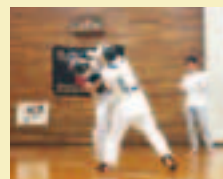
主将：宮嶋 優樹（法学部国際政治学科 3年）

今年は2名が全国大会出場、4月に行われた安芸地区空手道選手権大会では出場選手全員が1勝以上の白星をあげることができました。さらに、9月に行われた1年生の初めての試合でも、2位と3位に入賞。十分な経験を積む時間がなかったにも関わらず、大きな成果を残すことができました。今後は1・2年生も全国大会出場を目指し、より一層練習に励んでいきます。



日々の活動

大学から始めた部員が多いので、それに合わせた練習を行っています。試合前は経験の少ない部員の不安を少しでも解消するため、試合形式の練習時間を多くとっています。OBの先輩と練習をすることも多く、新しいことを吸収でき、とても良い経験になっています。拳法部では『全員一勝』を目標として掲げており、全員が1勝できたら部としての勝利と考えています。まずは1勝を目指し練習に取り組んでいます。



部員：15名
場所：拳法部道場（体育館1F）
17:00～19:00（火・金）



上田流茶道愛好会

この夏のイチオシNEWS 学生リーダーとして大舞台でお点前を披露しました



部長：向井 陸（法学部法律学科 3年）

8月に上田流和風堂本家事務局長よりお声がけいただき、広島国際会議場でお点前を披露しました。私は約120名の学生のリーダーとして参加しました。大学から茶道を始めたため、他学生から学ぶことの方が多く、お点前を披露するときは失敗しないように必死でした。しかし、大きな舞台でお客さまにおもてなしの心を持って接する機会ができたことは、とても良い経験になりました。



日々の活動

お茶会だけでなく、児童館からご依頼をいただき、小学生に飲み方や懐紙の折り方などの指導も行っています。教えることで作法を改めて理解することができ、良い経験になっています。茶道をしている人は年配の方が多く、私の年代はごく少数です。私たちが活動することで、若い世代の方々に茶道を知ってもらえることができれば嬉しいです。



部員：32名
場所：フォーラム2階和室
16:30～18:30（水）



男子ソフトボール部

この夏のイチオシNEWS リベンジの末、インカレ出場を果たしました



主将：坂本 翔太（法学部法律学科 3年）

5月に行われた中国大会で3位に入賞しました。インカレ出場をかけた試合は、昨年負けたチームとの対戦で、特に印象に残っています。その結果、西日本・全日本と2つのインカレ出場権を獲得しました。7月に行われた西日本インカレでは、ベスト8をかけた試合でタイブレーカー※の末、私のミスで敗退してしまいました。その時の雪辱を果たすべく、来年もインカレに出場し、ベスト8以上になることが目標です。



日々の活動

普段はキャッチボールに始まり、ノック、バッティング、その後は各々が不足していると思うことを決め、自主練という形で練習に取り組んでいます。部員は個性が強く、賑やかなメンバーが揃っており、厳しくも楽しみながら活動しています。今は守り勝つという試合運びが多いのですが、取られても取り返せるチームを目指し、バッティングにも力を入れて練習をしていきたいです。



部員：31名
場所：第2グラウンド
16:20～19:30（火・木・土・日）



マジシャンズグループASRA

この夏のイチオシNEWS マジック披露に加え指導も、地域交流が盛んです



部長：中田 靖崇（経済学部経済情報学科 3年）

今年の8月はお祭りや児童館などで合計7件のご依頼をいただき、マジックを披露しました。依頼によって与えられる時間や年齢層がさまざまな中で、いかに楽しんでもいただける構成にできるかを考えながら何度も話し合いを重ねています。希望があれば簡単なマジックの指導やバルーンアートを披露することもあります。観客の方からの歓声や拍手が何よりも達成感を感じる瞬間です。



日々の活動

部員はほとんどがマジック初心者で面白そうと入部してくれる人が多い中、本気でマジックをやりたいという部員もおり、部員ごとに取り組み方に違いがあります。しかし、そこがASRAの良さと考え、マジックを自由に楽しむことのできるサークルであればいいと思っています。そのために最低限のルールを守るよう徹底しています。今後も部員の個性を大切にした活動をしていきたいです。



部員：15名
場所：5号館4階空き教室（主に5415）
16:45～19:45（月・木）



サークルニュース Circle News

サークル活動に関わるニュースをピックアップしてご紹介します。

自転車部が新設されました

2017年3月に自転車部が新設されました。現在は2年生7名、1年生13名の計20名で活動しています。シティサイクルからロードバイクまでさまざまな車種があります。活動はカフェ巡りなどをするポタリング、サイクリング、キャンプツーリング、ブルベ、ロードレースとジャンルは問いません。自転車を愛好するさまざまな人たちの『憩いの場』を作るため活動しています。自転車に興味のある方は、ぜひ一緒に楽しみましょう！



クラブハウスが新しくなりました

2017年3月に体育・文化クラブハウスをリフォームしました。壁やドアの塗装に加え、ヒビの修復、エアコンのリニューアルなど今まで以上に綺麗で快適に生まれ変わりました。フロアごとにドアの色が異なるので、普段行かないフロアへ足を運んでみると新しい発見があるかもしれません。少しでも長く使えるよう、意識して過ごしてみてください。



FCフェルテが全国大会に出場します

6月24～25日にかけて福山市で行われたサッカーの「SS umbro CUP 2017 WEST -5th Leg FUKUYAMA-」で、FCフェルテの1年生チームが優勝し、来年2月に行われる全国大会への出場権を獲得しました。FCフェルテは昨年12月に体育局へ昇格したばかりです。今後ますますの活躍を期待しています。



修大生の皆さんへ 私たちが取材に伺います！ ～学生広報スタッフからのお知らせ～

広島修道大学には、サークル・委員会等の団体が約100あり、大会に出場したり、展示会を開くなどさまざまな活動を行っています。

演奏会の告知、サークルメンバーの募集、大会の戦績、普段の練習の様子など、何か情報を発信してみませんか？「取材に来てほしい！」という団体・サークルがございましたら、私たち広報スタッフまでお声がけください！

お問い合わせ先：kouhou@js.shudo-u.ac.jp



写真左から 宮嶋 優樹(みやじま ゆうき) 法学部国際政治学科3年／田中 彩季(たなか さき) 法学部国際政治学科3年／羽田 菜子(はだらくこ) 商学部商学科1年

第57回修大祭を開催します 11/3

今年のテーマ『群青～shudaism～』

修大学友をはじめ、来場者並びに関係者の皆さまに今年の修大祭は青春の青を感じていただきたいと考え、テーマに「群青」を入れました。また、修大らしさを全開にした他にはない大学祭にするという意気込みから『shudaism(修大主義)』という言葉を組み合わせて、このテーマに決定しました！

企画について

今年は当日に講演会を開きます。また、キャンドルナイト企画では大学を群青色に装飾して皆さまをお迎えします！

体育館前企画 9:00～17:00

体育館前と第2駐車場にてフリーマーケットを開催。スタンプラリーや野菜の朝市に加え、豪華賞品をご用意したクイズ大会を開催します！

ゲーム・工作教室 10:00～16:00

フォーラム2階で、子ども向けに工作教室やダーツ・射的等のゲームを実施！景品も有ります！

ウッドステージ企画 10:00～17:00

今年からマンドリン部による演奏会が開催されます！その他、マジシャンズグループASRAによるマジックショーや、展示や迫力満点の演舞祭、子ども向けに人形劇やひねり屋ジャッキさんによるバルーンショー等のこどもまつりを展開します！

プレイグラウンド企画 10:00～20:00

特設ステージでは、ビンゴ大会、バンド演奏、混声合唱団・ダンスサークルによるパフォーマンスと盛りだくさん！約60店舗の屋台も出店し、修大祭ラストはイルミネーションと花火で飾ります！

キャンドルナイト企画 10:00～20:00

実際にキャンドルを作る学内向け文化祭をはじめ、当日はハーモニーロードの装飾、17時から体育館階段にてキャンドルを灯し、修大祭の夜を彩ります。

詳しくは、広島修道大学大学祭実行委員会公式HPをご覧ください。<http://shudaisai.wixsite.com/shudaisai>



文化局 活動スケジュール

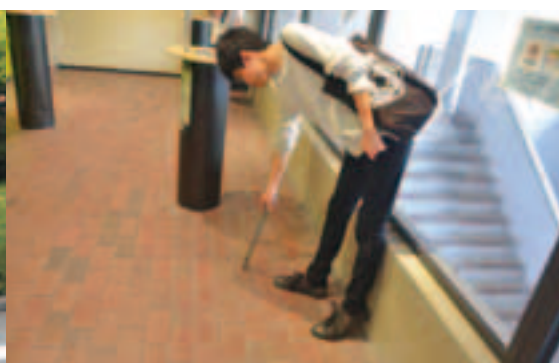
サークル・団体名	日時	大会・行事名	場所
映画研究会	11月下旬	サロンシネマ	サロンシネマ1・2
	1月中旬	冬の学内SMF	修大講堂
国際交流サークルICL	10月下旬	ハロウィンパーティ	未定
	11月19日	国際フェスタ2017	広島国際会議場
	12月中旬	クリスマスパーティ	未定
吹奏楽団	11月26日	第33回定期演奏会	安佐南区民文化センター
ハワイアン部	11月中旬	秋の定期演奏会	修大講堂
マンドリン部	11月11日	定期演奏会	修大講堂
ウエスタン部	10月20日	秋の定期演奏会	修大講堂
演劇部	11月24・25日	冬公演*	JMSアステールプラザ5F視聴覚スタジオ
ロック部	12月1日	秋の定期演奏会	修大講堂

*有料です。

体育局 試合・戦績

サークル・団体名	大会・行事名	結果
弓道部	第65回全日本学生弓道大会	団体 予選敗退 女子個人 予選敗退
	西日本インカレ	11名出場
陸上競技部	中国五県大会	男子400m 7位 伊藤大地 男子800m 7位 宮藤優希 男子4×400mR 5位 小松・伊藤・山田・佐々木
	全日本チームレース選手権大会	5位
剣道部	広島県学生剣道大会	男子団体Aチーム 3位 男子団体Cチーム 3位
バドミントン部	中国大会	女子ダブルスA級 3位 女子ダブルスB級 2位、3位 ミックスダブルス 4位
	県リーグ	女子団体 優勝
ソフトボール部男子	西日本大会	ベスト16
山岳部	夏山合宿	北穂高岳(3106m) 登頂
硬式庭球部	平成29年度夏季中国四国学生テニス選手権大会	女子シングルス 優勝 岡田優香 女子シングルス ベスト4 平野友理 女子ダブルス ベスト4 岡田・平野
卓球部	第68回中国学生卓球選手権秋季大会	男子シングルス 準優勝 重本浩輔 男子シングルス ベスト16 木下慶 男子ダブルス 3位 重本・木下ペア

Hiroshima Shudo University Campus Photo Message



①2017年度オープンキャンパス、延べ6,000名以上が来場

6月から8月にかけて計4日間、オープンキャンパスが行われ、県内・県外から6,000名以上の方にご来場いただきました。説明会に加え、各学部の模擬講義や実験実習など、本学の学びを実際に体験していただきながら、高校生や保護者の皆さまに修大の魅力を発信しました。

②小学生対象「バランスごまづくり」を開催

8月20日、リビング新聞小学生参加企画「こども未来はっけん大学」として、「クルクル回そう!食べ物バランスごま」を実施し、児童・保護者あわせて25名にご参加いただきました。本学山内信教授(健康科学部)の指導のもと、黄色、緑、赤の3つの食品群と、バランスの良い食事の大切さを学びながら「食べ物バランスごま」の工作に取り組みました。食事のバランスが良いとクルクル回り、悪いと倒れるため、楽しく食事バランスを理解できました。

③Global Weeksで4カ国の文化を紹介

5月23日から7月7日までiCafeにてGlobal Weeksを開催し、1週間ごとにアメリカ、ニュージーランド、中国、韓国の4カ国を紹介しました。それぞれの国にまつわるクイズや、留学生による自国や大学の紹介、留学経験者(本学学生)のお話会などを行い、さまざまな国の学生がイベントを通して交流を深めました。

④秋のマナーアップキャンペーンを実施

10月9日から10月13日まで、秋のマナーアップキャンペーンを実施しました。これは、修大生の交通・喫煙マナー、美化意識の徹底、向上のきっかけとして毎年実施しています。広域公園の清掃、喫煙・交通マナーアップキャンペーン、本学南口付近の五月が丘団地内の清掃をする「クリーンフェスタ」等、学生が主体となって取り組みました。

⑤卒業生が修大で結婚式前撮り

7月26日、学内にて結婚式の撮り出しの撮影が行われました。新郎・新婦共に本学の卒業生で、学舎での風景を記念に残したいとのことでした。お二人の未来が素晴らしいものでありますようお祈りいたします。

PRESENT

クイズに答えてプレゼントをもらおう

Q 本学は「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献する人材の養成」を理念、教育目標として掲げていますが、今回の座談会でスローガンとして書かれていた言葉はどれでしょう?

- 1 世界を学び、地方で生きる。
- 2 地域を学び、世界で生きる。
- 3 世界を学び、地域で生きる。

正解者の中から5名の方に、本学教員による共同開発商品「マルチリキッド(タッチパネル磨)」をプレゼント。ハガキに、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、クイズの回答をご記入の上、〒731-3195広島修道大学総合企画課宛までご応募ください。(住所表記なしで届きます)。

締切りは、12月15日(金)ノ消印有効。プレゼントの発送をもって発表に代えさせていただきます。正解は12月18日(月)以降、本学ホームページにて発表!なお、応募に関する個人情報は本目的以外には使用いたしません。

—— TRUTH夏号の問題と答えを発表します。 ——

Q 2018年4月に国際コミュニティ学部を開設します。めざすのは、Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動する)を実践できる人の育成です。この学部には二つの学科がありますが、国際政治学科ともう一つは何学科でしょう?

- ① 地方行政学科
- ② 地域コミュニティ学科
- ③ 地域行政学科

答えは「③地域行政学科」です。

多数のご応募ありがとうございました。

「旬」な情報を発信中!

大学の最新ニュースや何気ない1コマをtwitterやFacebookで紹介しています。またYou Tubeでは大学紹介ムービーやテレビCM、修大の学歌などを視聴いただけます。



twitter
http://twitter.com/shudo_u



You Tube
<http://www.youtube.com/user/shudokikaku>



Facebook
<https://www.facebook.com/HiroshimaShudoUniversity>